



巻頭言

明治維新に想う

財団法人 日本植物調節剤研究協会 評議員
社団法人 緑の安全推進協会専務理事

安岡 健

今年は業界にとっては維新、改革の年にならなくてはならないと思います。2002年にその端を発した無登録農薬の使用問題に伴う農薬取締法の改正、施行など2年度に亘る激震の中で年が明けました。今年は改正法に則り無登録農薬の追放と違法、不正使用の撲滅を果たさなくてはならない年であります。同時に農薬の安全性に関する信頼回復を果たす年でもあります。

その為には農薬に係わるものの一人一人が法遵守への意識を高め、改革をしなくてはなりません。特に企業のトップにおかれては、現場意識を基調にリーダーシップを発揮して頂きたいと思っております。

もう30年前になりますが、小説「山本五十六」を興味深く読みました。当時の「聯合艦隊司令長官」だった山本長官が、真珠湾奇襲作戦を成功させる為の訓練の状況等が詳しく書かれており、その苦労が偲ばれる思いで読んだ記憶が残っております。

結果的には、作戦は有名となった暗号文「トラトラトラ」に表されている通り、日本はパールハーバーの奇襲作戦に成功した訳ですが、その陰には多くの困難があったものと思われます。その苦労を偲ばせる名句が、印象深く記憶に残っておりますので紹介しますが、正に率先垂範でしょうか。

“遣(や)って見せて、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば兵(ひと)は動かじ”とありました。

戦局の末期、前線の兵士督励のため出向き、ソロモン諸島の上空で戦死された訳ですが、指導の理念を、身をもって示したことだと思われます。

是非の論議は別にして、時々時代の背景も、

社会環境更に社会通念が異なっても、難局を乗り越える為のリーダーの姿勢、信念によって、事の成否が左右されるものと思われます。毅然とした態度、確固たる信念でリーダーシップを発揮して頂きたいと思います。

さて年未来、明治維新に活躍した人たちが登場するテレビドラマが放映されました。年末には坂本龍馬、新年は大河ドラマとして新撰組が放映されています。徳川300年、太平の世が続いたこの時代、鎖国だ、開国だ、攘夷だ、尊王だと黒船襲来で騒然となり、多くの血が流れた訳ですが、彼らの活動があったから大政奉還となり、明治維新となり近代日本が実現した訳で、正に身を挺して改革を成し遂げたと見るべきでしょう。

今、この時期これらのドラマが何を示唆しているのか、何を求めているのか、測り知るところではありませんが、今の世の中、当時の情景と似ているように思われます。(勝手な思いですが)

農薬業界は、今、最も厳しい状況の中にあります。今、何を求め、なすべきかを明確にし、行動する時であると思われます。

“仏作って魂入れず”では改革になりません。

先ず法令遵守がスタートです。武道に“守、破、離”と云う言葉があります。“守”は基本をしっかりと身につけること、それが武道の原点であると説いていると聞いております。

そこから上達があり、発展し、新しい流儀が生まれてゆくのだと言われております。何事も基本をしっかりと身につけることが、発展の原点だと思っております。

業界一体となって、基本に帰り、真の発展を目指し、魂を入れ新しく出発しましょう。